

四季の訪問

(111)



飯野海運 非常勤監査役

佐久間 信夫氏

(時習15回)

- 略歴
- 昭和19年5月21日生まれ
 - 昭和38年3月 時習館高校卒業
 - 昭和43年3月 東京大学 法学部 卒業
 - 〃 4月 日本開発銀行入行
 - 平成11年4月 監事就任
 - 〃 10月 日本政策投資銀行監事 退任
 - 平成13年3月 京葉瓦斯(株) 常務取締役
 - 平成17年3月 社長
 - 平成23年3月 相談役
 - 平成24年3月 退任
 - 〃 6月 飯野海運 非常勤監査役 就任(現)

去る11月17日、永田町の海運クラブで15回生の佐久間信夫さんに「四季の訪問」のインタビューをしました。

* * * *

佐久間さんは、1944年5月 浜松のお母様のご実家で生まれ、生後まもなく医者であるお父様の赴任地、函館に移りました。3歳で、お父様の実家である豊橋の大橋通りに帰りました。

▼豊橋のど真ん中で過ごした幼少期から学童期

3歳で豊橋に戻ってきたんですが、また、そのころの大橋通りはバラックがポツポツと建ちはじめたばかりのだった。広い焼け跡で、缶けり、鬼ごっこ、かくれんぼと、とにかく外で、夕方、母が「もうご飯だから帰るなさい」と呼びに来るまで遊んでいました。子供の数がやたら多かったように思います。

小学校は松葉小でした。また僕の小学校時代は、ちょうど50年代に入っていくときだったので、豊橋のような地方都市でも目に見えて生活が豊かになっていくのを仲間の服装で実感しました。一年の入学のときは、みんなそれぞれそ浮浪児のようなポロポロの格好だったのが、卒業アルバムを見るとそれなりにこざっぱりしてるんですよ。そのころから映画もよく観に行きましたね。当時の豊橋には、大映、日活、新東宝、東映、松竹、東宝、それに洋画専門館が2つと計8つの映画館があって今思うと映画全盛のころでした。どちらかというと洋画が好きで「風と共に去りぬ」「シネオン」

「ウエストサイド物語」なんか懐かしいですね。

お小遣いは5円で、3時のおやつに夏はカキ氷、冬場は焼き芋、その中間はお好み焼き、もちろん駄菓子屋でサイコロキャラメル、ちくわなんかも買い食いしていました。

そうそう、邦画ではチャンバラが好みで、「新諸国物語」や「旗本退屈男」など面白かった記憶があります。

▼豊城中学から時習館へ

中学時代は野球に熱中していました。もともと小学生のころから、野球好きだった父のキャッチボールの相手をしていました。松葉小でも野球部でしたから当然、豊城中の野球部に入りました。豊城中は野球部はなかなか強く、市内大会で3年のときには優勝しました。僕は3番サードで、自分というのなんですが強打者でしたね。同期でキャッチャーだった山本くんは名古屋の野球の名門校「中京商」に進みました。そして、いよいよ時習館時代ですが、残念ながらあまり記憶に残るようなことはなかったですね。だいたい豊城中からは100人くらい時習館に行きましたから。周りは知った顔も多く、環境の変化もあまり感じなかったですね。

部活は、もちろん野球部に入りました。体育会系のハードな練習で、昔は練習中には水を飲んではいけない決まりになっていて、これはきつかったですね。そうこうするうちに黄疸になったりして、結局甲子園の予選に出場したあと、野球部をやめることになりました。

その後は、勉強に明け暮れたと言いたいところですが、碁、将棋、マージャンにはまって、徹マン明けに学校に行って青い顔をしてボーとしていたら、先生に「いい加減にしとけよ」といわれたこともありました。

読書は大好きで、森鷗外、島崎藤村、夏目漱石などの名作を乱読していました。

あといい思い出になったのは、時習名物「ファイアーストーム」です。これには後日談がありまして、ストームのあと、酒持って蒲郡の竹島に行った連中がいて(私は行きませんでした)、あとで、かなり絞られたようです。しかし停学などの厳しい処置はなかったようで、今では考えられないいい時代だったんですね。

3年で受験を考え始めた時、もちろん父は医学部を強く勧めましたが、小さいときから医者という仕事の大変さをつぶさに見てきたので「俺には無理かな?」と思っていました。

今のように当直医制度などなかったので、お休みの日でも急患があれば診ていましたから、昔の開業医は、ほとんど休む暇がなかったようです。

家は眼科でしたから、子供が目は何か刺さったとかいうと、親は失明するのではなにか?とすごく心配しますから、それを「大丈夫ですよ」と安心してもらうよう話すのも大変そうでした。

それで受験は、母方の叔父が銀行マンだったのもあって、東大の法学部をめざしました。現役では受かりませんでした。

▼駿台から東大法学部へ

浪人中は、下宿して東京の駿台に通って

いました。以前(平成20年)日経の「交遊抄」にも書きましたが、高校時代からの親友「なおし」(中村直司くん)と勉強の合間に将棋を指すのが唯一の息抜きでした。そして再度、東大にチャレンジするんですが、しかし二期校は東京医科歯科大学に願書を出していました。尊敬する親父の期待は感じていましたから。

でも、希望通り東大に合格したので、結局医科歯科は受けなかったんですが、医科歯科に行って医者になっていたかもしれないですね。人生はどこでどうなるかわからないものです。

そのころの東大では、勉学に勤しむ勤勉派、学生運動にあけくれる活動派、麻雀や映画に入れ込む遊学派とおおきく三つにわかれていました。もちろん、私は遊学派でした。

また、地方からの上京組も多かったですね。そういったのは、今でも時々あって昔を懐かしんでいます。もちろん女子は少なく、法学部は5%程度だったと思います。

▼銀行マン時代

無事4年で卒業し、銀行マンになりました。しかし一般の都市銀行ではなく、日本開発銀行に就職しました。というのも、友達のお姉さんが開発銀行に勤めていて、友達に「開発銀行に行ってみたら？」と勧められ、人事部で所定の用紙をもらって書いて出すと、後日面接日が通知されて、そこで採用となり、めでたく銀行マンデビューしたわけですよ。

開発銀行というのはお金を集めるという仕事はなかったんです。叔父からお金を集める大変さを聞いていたので、それが無い銀行を選んだということですが、開発銀行は

いわゆる政策金融になう銀行で、その時々必要とされる産業分野に融資するのが仕事です。設立当初は、「石炭」「電力」「海運」「鉄鋼」の4大産業に重点が置かれていた。私の入行した時代は、それに加えて「地方開発」「電器」「自動車」「化学」などが加わっていました。

まず、本店に勤務しました。その後、独身で名古屋支店、単身で大阪、金沢へ。支店長として勤務した金沢では、さすがに伝統芸能が日常生活に根付いている土地柄からか、小唄をほぼ強制的に稽古させられ、発表会にも出ました。今となってはいい思い出です。

そしてまた本店に営業第三部長としてもどり、平成11年監事に。合併した日本政策投資銀行監事となり、平成13年に退社して京葉ガス常務になりました。

銀行入行後、また野球部に入り、30才すぎまで現役で野球を続け、「銀行リーグ」に出場していました。

▼京葉ガス時代から現在

平成13年に京葉ガスの常務として転出。17年に社長に就任しました。銀行と違って実際の会社の経営に携わるのですから、神経も遣うし気の休まる暇もありませんでしたが、もともと好奇心旺盛なところもあり充実していました。特に銀行時代とは働いている人たちのタイプがまったく違ってました。

また現場仕事が多く、直接お客様に接してよい刺激になりました。今でも、そのとき知り合った方々とは機会あるごとに一緒に飲んでいます。

印象的な出来事は、社長退任直前の東日本震災です。このときは、配管の点検などずいぶん業務に支障がでました。また仕事ではありませんが、京葉ガスは、柔道と野球に力を入れていまして、その応援で全国津々浦々を飛びまわりました。掲載の写真は全国ガス野球大会で始球式をやった時のものです。



全国ガス野球大会での開会挨拶

現在は銀行時代から縁の深かった海運業界の飯野海運に監査役として勤務しています。最後にこうして来た道を振り返ってみると、大学受験、就職、結婚と自分自身で決めてきたんですが、その選択の根っここのころには親の期待や周りの視線が関係なかったとは言えないような気がします。

僕の場合は特に親父を意識してたんじゃないですかね? 親父は、野球と囲碁が趣味で、子供のころからキャッチボールや囲碁の相手をさせられていました。親父は東大の医局時代と豊橋医師会でピッチャーでしたから。僕は本格的なボールを子供のころから受けていたんですよ。

親父は、また大の中日ファンで亡くなる直前まで中日の試合をテレビで観ていました。熱い人だったんですね。それは後の私の生き方に色濃く反映していると思います。父としても医者としても尊敬していましたが、どこかでやっぱり認めてもらいたいとは思っていたんです。生きていたらなんといわれたでしょう?

* * * * *

佐久間さん、紺のブレザーにティファニーの銀のカフス、セリーヌのマフラーをお召しになっておしゃれでダンディー! ところがお話を聴くと、野球一直線の直球人生、とっても硬派なかたでした。

幼少から60代後半までいろんな形で野球とかかわってこられ、まさに野球は佐久間さんの人生の横糸だったのかな? と思いました。

いつまでも、現役でご活躍期待しています。(平 洋子)